

福岡空港の総合的な調査に係る
PI活動(ステップ2)の実施状況レポート

実施状況把握を行った者	福岡空港調査PI有識者委員会委員 石田 東生
-------------	------------------------

日時・場所	日時：平成18年 8月 10日 14時30分～16時 場所：大野城市まどかぴあ中ホール
PI活動の種類	説明会
所見 (アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ お盆休み直前の平日の午後にもかかわらず、50人以上の参加者があり、質疑も活発であった。会場のコンパクトさによるところが大きいかと思うが、適度な密度感も好感が持てた。会場選択の重要性を示していると思う。 ・ 会場へのアプローチにパネルが展示され、参加者が自然に見るようになっていたことも評価できる。 ・ ステップ1の説明会に比べて、説明や質疑応答が随分こなれて、良くなっていると思う。しかし、ステップ1におけるPIの成果とそれらが現時点でどのように活用されているかについての説明が必ずしも十分でなく、PIに本質的な双方向性、ダイナミックさの印象が弱かったのが残念である。 ・ また、需要予測に関する質疑はほとんどなく、需要予測モデルや結果をどう考えるについての説明と課題認識の共有化の難しさを改めて認識させられた。需要予測はやはり非常に重要なパートである。そのことを福岡空港調査連絡調整会議としても認識しているので、すべての情報(データ、モデル等)を公開しているであろう。このこと自体は高く評価できる。情報公開こそが透明性と信頼性の源であるからである。 ・ しかし、単に公開するだけではなく議論を喚起する仕掛け、例えば多少の専門的知識を備えた第三者(NPO、種々の活動団体等?)を交えてじっくりした議論を行い、そこでの議論概要の公開提供が、需要予測のさらなる信頼性と透明性の向上にとって有用であると考えがいかがであろうか(提案)。 ・ 需要予測に関するいくつかの質問があった。国際航空旅客が全国の伸びに比べて、福岡ではそれほどのびていないことの理由とそれを需要予測にどう反映させるかというコメント、アクセス交通の改善による近隣空港との連携方策の効果などである。これらは、政策変数として設定できる変数が現時点ではきわめて限られていて、ほとんどが航空会社の経営上の判断に影響されるので、予測が難しいところではあるが、過去の需要動向の分析などを踏まえた回答なども工夫されるとさらに良かったと思う。